

平成30年度 事務事業マネジメントシート

事業の基本情報					
事務事業名		塵芥収集事業		担当課	生活環境課
総合計画	政策	安全・安心に暮らせるまち		計画期間	昭和57年度～
	施策	循環型社会の形成		種別	法定事務
	基本事業	廃棄物の適正処理		市民協働	事業協力
予算科目コード		01-040201-09 単独	根拠法令・条例等	廃棄物の処理及び清掃に関する法律 守谷市廃棄物の処理及び再利用の促進に関する条例	

なぜ、この事業を実施しているか？ 何をどうするための事業か？	
背景（なぜ始めたのか）	内容（何の業務活動をどのような手法で行うか）
人口の増加に伴い、家庭から排出されるごみの量が年々増加してきたことにより、昭和57年からごみの収集運搬を民間委託により実施している。	・ごみ処理実施計画に基づき、収集日程表（クリーンカレンダー）を作成し、集積所に排出された家庭系一般廃棄物等の収集運搬を行う。粗大ごみについては、電話やインターネットで申し込みを受け付け、月2回戸別収集を行う。 ・ごみ収集日程表、家庭ごみ分別の手引き等の作成 ・臨時職員2名の任用（粗大ごみ受付、直接搬入受付） ・家庭系一般廃棄物等の収集運搬委託 ・粗大ごみ収集運搬券の店舗への販売委託
目的及び期待する効果（誰（何）をどうしたいのか）	
一般廃棄物の適正かつ安定的な収集運搬を行うとともに、ごみ集積所の適正管理等による生活環境の保全と公衆衛生の向上を図る。	
（参考）基本事業の目指す姿	
ごみの分別を徹底し、再利用可能な資源の有効利用を図る。	・5種16分別による廃棄物回収 - 可燃ごみ 週2回（火金） - 不燃ごみ 週1回（月） - 資源物（プラ容器） 週1回（水） - 資源物（空き缶） 月2回（第2第4水） - 資源物（ビン） 月2回（第1第3木） - 資源物（古紙布） 月2回（第2第4木） - 資源物（ペットボトル） 月2回（第1第3木） - 粗大ごみ 予約により戸別回収（第1第3月） ※ 市内を3つのエリアに分割し3業者による業務委託を実施

事業の課題認識，改善の視点（次年度にどう取り組むか）	
目的達成のための課題（問題点，現状分析，課題設定）	具体的内容とスケジュール
平成24年度から5種16分別での収集体制になり，収集回数が増加したほか，人口増に伴う収集箇所増加に比例して，委託料も増加している。 （参考） 現在の集積所数（平成29年度実績） 一般集積所 1,535箇所 公共施設等 49箇所	3月末 業務委託契約締結 4月～3月 事業者による収集運搬実施
改善内容（課題解決に向けた解決策）	
人口の増加が続く間は，収集箇所も増加するため，収集運搬委託料の減少はできない。	
次年度のコストの方向性（→その理由）	
■ 増加 □ 維持 □ 削減	人口の増加が続く間は，収集箇所数も増加し，それに比例し収集運搬委託料も増加する。

H29年度の評価（課題）を受けて、どのように取り組んだか（H30年度の振り返り）	
H29年度の評価（課題）	H30年度の実績（評価、課題への対応）
環境行政を取り巻く状況等を踏まえ、ごみの減量化及びリサイクルの推進に取り組むことで、人口増にも拘らず、家庭から排出されるごみの収集量は、横ばいになっている。	市内を3エリアに分割して3業者と収集契約を締結し、収運搬を実施した。また、集積所設置の際は、適切な収集が行えるよう、設置者（管理者）に指導と助言を行った。

評価（指標の推移、今後の方向性）					
指標名	基準値（H26）	H29年度	H30年度	R01年度	目標値（R03）
ごみ集積所数（箇所）	1,418.00	1,535.00	1,550.00	1,576.00	1,645.00
家庭系年間ごみ収集量（行政回収分のみ・資源含）（トン）	14,663.00	14,284.00	14,342.00	14,521.00	15,583.00
成果の動向（→その理由）					
☐ 向上 ☒ 横ばい ☐ 低下	宅地開発や集合住宅の増加に伴い、ごみ集積所も増加しているが、家庭系のごみ排出量は横ばいになっている。				
今後の事業の方向性（→その理由）					
☐ 拡大 ☐ 縮小 ☒ 維持 ☐ 改善・効率化 ☐ 統合 ☐ 廃止・終了	ごみ収集は住民生活に欠かせないものであるため、事業は継続して実施する。				

コストの推移						
項目		H28年度決算	H29年度決算	H30年度決算	R01年度予算	R02年度見込
事業費	計	224,894	228,432	232,005	243,083	249,481
	国・県支出金	0	0	0	0	0
	地方債	0	0	0	0	0
	その他	12,341	12,820	12,884	10,734	10,000
	一般財源	212,553	215,612	219,121	232,349	239,481
正職員人工数（時間数）		2,518.00	1,807.00	2,822.00	2,822.00	2,822.00
正職員人件費		10,324	7,409	11,782	0	0
トータルコスト		235,218	235,841	243,787	243,083	249,481

平成30年度 事務事業マネジメントシート

事業の基本情報					
事務事業名		常総地方広域市町村圏事務組合負担金（ごみ処理）		担当課	生活環境課
総合計画	政策	安全・安心に暮らせるまち		計画期間	昭和47年度～
	施策	循環型社会の形成		種別	任意の事務
	基本事業	廃棄物の適正処理		市民協働	
予算科目コード		01-040201-11 単独	根拠法令・条例等		

なぜ、この事業を実施しているか？ 何をどうするための事業か？	
背景（なぜ始めたのか）	内容（何の業務活動をどのような手法で行うか） 一般廃棄物の処理及び資源化を実施している常総地方広域市町村圏事務組合に対し、構成4市（守谷市、取手市、常総市、つくばみらい市）で人口やごみの処理量に応じた負担金を支出する。 ・負担割合 均等割10％，実績割90％ (H30年度全体負担金1,389,060,000円，市負担率25.14％)
目的及び期待する効果（誰（何）をどうしたいのか）	
ごみ処理施設「常総環境センター」を常総地方広域市町村圏事務組合が管理・運営することにより，市内から排出される一般廃棄物を効率的かつ環境負荷が少ない方式で処理することができる。	
（参考）基本事業の目指す姿	
ごみの分別を徹底し，再利用可能な資源の有効利用を図る。	

事業の課題認識，改善の視点（次年度にどう取り組むか）	
目的達成のための課題（問題点，現状分析，課題設定）	具体的内容とスケジュール
改善内容(課題解決に向けた解決策)	
次年度のコストの方向性（→その理由）	
☐ 増加 ☐ 維持 ☐ 削減	

H29年度の評価（課題）を受けて、どのように取り組んだか（H30年度の振り返り）	
H29年度の評価（課題）	H30年度の実績（評価、課題への対応）

評価（指標の推移、今後の方向性）					
指標名	基準値（H26）	H29年度	H30年度	R01年度	目標値（R03）
	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
成果の動向（→その理由）					
☐ 向上 ☐ 横ばい ☐ 低下					
今後の事業の方向性（→その理由）					
☐ 拡大 ☐ 縮小 ☐ 維持 ☐ 改善・効率化 ☐ 統合 ☐ 廃止・終了					

コストの推移						
項目		H28年度決算	H29年度決算	H30年度決算	R01年度予算	R02年度見込
事業費	計	347,264	360,879	349,162	371,668	371,668
	国・県支出金	0	0	0	0	0
	地方債	0	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0	0
	一般財源	347,264	360,879	349,162	371,668	371,668
正職員人工数（時間数）		81.00	19.00	65.00	65.00	65.00
正職員人件費		332	78	271	0	0
トータルコスト		347,596	360,957	349,433	371,668	371,668

平成30年度 事務事業マネジメントシート

事業の基本情報					
事務事業名		常総衛生組合負担金		担当課	生活環境課
総合計画	政策	安全・安心に暮らせるまち		計画期間	昭和37年度～
	施策	循環型社会の形成		種別	任意の事務
	基本事業	廃棄物の適正処理		市民協働	
予算科目コード		01-040202-01 単独	根拠法令・条例等		

なぜ、この事業を実施しているか？ 何をどうするための事業か？	
背景（なぜ始めたのか）	内容（何の業務活動をどのような手法で行うか） し尿・浄化槽汚泥を処理している常総衛生組合に対し，構成4市（守谷市，坂東市，常総市，つくばみらい市）で人口や処理量に応じた負担金を支出する。 ・負担割合 均等割10％，実績割90％ (H30年度全体負担金321,246,000円，市負担率4.1％)
目的及び期待する効果（誰（何）をどうしたいのか）	
し尿処理施設「クリーンセンターきぬ」を常総衛生組合が管理・運営することで，市内から排出されるし尿・浄化槽汚泥を適正に処理することができる。	
（参考）基本事業の目指す姿	
ごみの分別を徹底し，再利用可能な資源の有効利用を図る。	

事業の課題認識，改善の視点（次年度にどう取り組むか）	
目的達成のための課題（問題点，現状分析，課題設定）	具体的内容とスケジュール
改善内容(課題解決に向けた解決策)	
次年度のコストの方向性（→その理由）	
☐ 増加 ☐ 維持 ☐ 削減	

H29年度の評価（課題）を受けて、どのように取り組んだか（H30年度の振り返り）	
H29年度の評価（課題）	H30年度の実績（評価、課題への対応）

評価（指標の推移、今後の方向性）					
指標名	基準値（H26）	H29年度	H30年度	R01年度	目標値（R03）
	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
成果の動向（→その理由）					
☐ 向上 ☐ 横ばい ☐ 低下					
今後の事業の方向性（→その理由）					
☐ 拡大 ☐ 縮小 ☐ 維持 ☐ 改善・効率化 ☐ 統合 ☐ 廃止・終了					

コストの推移						
項目		H28年度決算	H29年度決算	H30年度決算	R01年度予算	R02年度見込
事業費	計	13,042	13,188	13,171	11,674	11,674
	国・県支出金	0	0	0	0	0
	地方債	0	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0	0
	一般財源	13,042	13,188	13,171	11,674	11,674
正職員人工数（時間数）		3.00	4.00	4.00	4.00	4.00
正職員人件費		12	16	17	0	0
トータルコスト		13,054	13,204	13,188	11,674	11,674